

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち12～3月号で参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

人工知能とプラチナ社会の実現を目指す

旭志中学校2年 永田羅樹さん



私は、8月10日から13日までの4日間、プラチナ未来人財育成塾に参加しました。プラチナ社会とは、地球が持続し、豊かで自己実現を目指すことのできる社会のことをいいます。これはSDGsとも深く関わりがあります。今回の活動を通して、一番印象深く、考えさせられたのは、江間先生が講話された「人工知能（AI）と私たちの社会」についてでした。講義では、人工知能の活用における問題点が指摘されました。例えば、SNSのコメントで機械が差別的発言をしたり、顔認識システムで浅黒い肌の女性の認識精度・正答率が低かったりすることなどです。人工知能は、人間が創り出したモノで、大量のデータを「学習」することで、自ら特徴やパターンを抽出し、初めて見るデータでも分類や識別、予測ができるという性質があります。そのため、例に挙げた問題が起きる背景には、わたしたちが創りあげる社会の問題が深く関わっています。

SNSの事例では、人工知能が学習する大量のデータの中に、差別的な表現が多く含まれていたことが原因であり、顔認識システムの事例では、「浅黒い肌の女性」データが少なかつたことが原因です。つまり、わたしたち人間の社会に存在する部落差別や女性差別などの様々な差別を人工知能が学習してしまったという側面があるのです。

私は学校で人権学習をこれまで学んできました。部落問題や水俣病問題、ハンセン病問題など毎年学習していますが、まだまだ差別はなくならないままです。わたしたちの暮らしの中にも偏見があったり、差別につながることが起こっていたりしていると思います。それでも、わたしたちは「学習」することで、おかしなことに気づく力を身につけたり、なかまと一緒に立ち向かう力を少しずつ身につけたりすることができそうです。まだまだ十分ではないかもしれませんが、返してきます。しかし、もしも人工知能が経験しているように、間違っただけを「学習」しているとしたら、わたしたちも大きな間違いを犯してしまうことになると思います。だから、人工知能の問題は、学習させている人間の側に問題があるといえるのだと思います。

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち12～3月号で参加した生徒の報告書を紹介しします。

参加報告

誰にでも住みやすいまち

菊池北学校3年 山口波音さん



今回、私がプラチナ未来人財育成塾に参加する目的として、「誰にでも住みやすいまちについて考える」がありました。そして、この目標について分かったことと、「誰にでも住みやすいまち」とは何かについて、ここにまとめてみました。まず、「誰にでも住みやすいまち」にするために必要なのは、自己実現だと思えます。自己実現ができる社会は、それぞれの目標や夢などが達成できるので、年齢に関係なく誰もが活躍することができるはずですが、これからの社会は少子高齢化が進み、人手不足が深刻化してきます。その時に自己実現ができる社会が作られていたら、子どもから高齢者までもが、地域の課題に対して参加することができ、幅広い分野からの意見が聞けるため様々な課題に対してスムーズに対応し、地域参画の実現にもつながります。また、自己実現ができる社会はプラチナ社会にも共通しており、これからの未来のためにも自己実現を目標とし、ともに支え合っていくべきだと思います。そして、グローバル化を目標とするときも、自己実現が必要となるとき

次には必要なのは、常識を常識と考えない新しい考えを持った挑戦心です。現代の情報にあふれた社会に対する考え方で、この考えを持つことで様々な課題が見えてくると思います。私たちが普段暮らしている地域にも、この考えでより良い「まちづくり、つまり、未来を考えたまちづくり」ができると思います。地球温暖化などの環境問題が深刻になっていく現在では、環境にやさしいまちが人にやさしいまちになってくるはずなので、今の環境を残していくことが大切です。そしてこれらの解決

策として、生活の中に様々なテクノロジーを取り入れていくことが増えはじめると思います。今までの経験や常識ではテクノロジーと課題を組み合わせることは難しいです。しかし、新しいものには新しい考えを持たなければならず、そのためには新しいものを受け入れる挑戦心が必要だと思えます。これからの「常識を常識としない考え方」で様々な課題を見つけ、「新しい考えを持った挑戦心」でその課題を柔軟に対応していけると思っています。